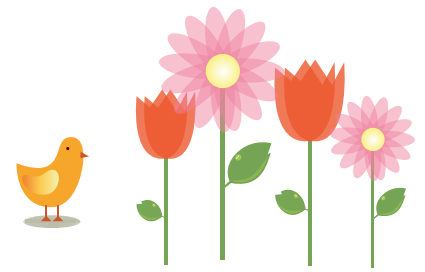


14 RSウイルス感染症



「RSウイルス感染症」という言葉はあまり馴染みがないかもしれませんね。

冬になると流行（今年は夏から流行しています）する風邪のウイルスの一種ですが、母親からの抗体で防ぐことができず、乳幼児でも感染してしまうのです。このウイルスは重症になることも多く、特に心臓の病気の一部や、未熟児の子供では重症となり生命にかかわることも出てきてしまいます。ワクチンもできているのですが、冬の間には5ヶ月間毎月ワクチンを接種する必要があり、適応は心臓疾患の一部と未熟児の一部のみです（一般の人が自費で接種しようとするとなら5ヶ月で40万円程度だったはず・・・）。

まず、鼻水、咳が出始めて2、3日すると発熱、喘鳴も認められる様になります。未熟児等が早期に感染すると無呼吸をおこし突然死となることがあります。6ヶ月未満の子供は未熟児でなくても酸素投与が必要になり入院することもあります。乳児で呼吸が1分間に60回以上の時は苦しくなっているので病院を受診した方が良いです。また、このウイルスが他の風邪と違うのは、細気管支という細い気管支の炎症が強くなり、喘息と同じような状態をひきおこしてしまうのです。そして、治った後も数年にわたって喘鳴を繰り返しやすい後遺症が出てしまうんです。乳児期に感染すると、その後2、3年は要注意です。

ただ、RSウイルスで喘息と同じような状態を繰り返した子供は、元々のアレルギー体質などが無ければ数年で喘鳴が出なくなります。大きい子の場合には一般的な風邪とあまり変わらないのですが、6ヶ月未満のお子さんは注意してください。